

---

# 因果の道理

私達の運命についての原因と結果の関係を、お釈迦様が分かりやすく説かれたのが仏教の根幹『因果の道理』です。

---



---

# 目次

---

## 【はじめに】

- 【 1】因果とは
- 【 2】結果には必ず原因がある
- 【 3】道理とは
- 【 4】運命の因果
- 【 5】善因善果 悪因悪果 自因自果
- 【 6】自業自得とは（1）
- 【 7】自業自得とは（2）
- 【 8】愚痴
- 【 9】諦観（1）
- 【10】諦観（2）
- 【11】自由
- 【12】口業
- 【13】自業自得（ドラッカー）
- 【14】なぜ他因自果と思うのか
- 【15】まいた種は必ず生える（1）
- 【16】まいた種は必ず生える（2）
- 【17】まいた種は必ず生える（3）
- 【18】意業が元
- 【19】阿頼耶識
- 【20】まいた種は必ず生える（4）
- 【21】まいた種は必ず生える（5）
- 【22】縁
- 【23】縁（縄を恨む泥棒）
- 【24】縁（果報は寝て待て）
- 【25】縁（結婚）
- 【26】縁（己が変わると運命が変わる）
- 【27】業力
- 【28】強縁

【はじめに】

最近のニュースに、コーヒー大手のスターバックスが熱すぎるお茶を出したために訴えられた、とありました。

やけどなどで心身ともに苦痛を受けたと主張しているとか。

賠償額は明らかになっていないそうですが、これがまた何億円という額なのではないでしょうか。

マクドナルドに、コーヒーのやけどで、賠償金約290万ドル（約2億7千万円）の支払いを命じる、という評決があって、これも話題になりました。

しかしこんなことで訴訟とか賠償請求とか、という発想はちょっと日本では考えられないですね

もし私が「ドトールのコーヒーが熱くて心身ともに苦痛を受けたので、訴えようと思うんだ」と周りに相談したら、友人は「大人気ない奴だ」と思うでしょうし、おそらく家族や兄弟などは「親戚中の恥だからお願いだからやめてくれ」と言いそうな気がします。

「熱くて当然のものをこぼしてやけどしても、それはオマエの不注意だろ」と言われるでしょうし、自分もそう思うでしょう。

■『自業自得』という仏教の言葉があります。

【業】とは「行為」。**【得】**とは「（果報や報いを）受ける」ということです。

【自分の受ける運命は、自分のまいた種による、周りのせいではないのだよ】これは仏教の根幹をなす教えですが、日本人の、ものの考え方の根底にはこういった仏教思想が息づいているんだな、と感じます。

とくに海外に行くと、「なぜこの場面でこういう発想になるの!？」と苦笑することの連続で、「それ、自業自得でしょ。」と言いたいのですが、日本でいう「自業自得」にあたる適切な言葉がなくて、説明しても時間がかかってしまうことが何度もありました。

■日本人はなにかと「自分は無宗教ですから」と主張します。

宗教を信じている人は弱い人間だ、という固定概念が日本人にはあるからなのか、ことさらにそのように言うことを誇っているような風潮さえ感じます。

ところがそんな日本人も、留学の際には「あなたの宗教は何か」と問われたら「仏教です。」と答えなさい、とアドバイスされます。

「無宗教です。」と答えると、違和感を持たれたり、「それはなぜだ。」と追求されるから、です。

しかし実際でも、海外で現地の人と接していると自分の思考パターン、ものの捉え方の中に【自業自得】を説く『因果の道理』という仏教思想が根を下ろしていて、そういう思考を持たない人がいるという現実に触れて「やはり日本は仏教国なんだな。」と感じられる場面は多々あると思います。

日本人が古から大事にしてきた『因果の道理』ということについて、体系立てて知りたいという希望があり、小冊子にまとめました。

十分説明仕切れない所もありますので、疑問に思われた事があれば、遠慮無く質問して下さい。

## 【1】因果とは

■『因果の道理』は、仏教の根幹です。

根っこがなければ木は枯れてしまうように、幹を切ったら木は倒れてしまうように、『因果の道理』がわからなければ、仏教は一切わかりません。

釈迦一切経は七千余巻にのぼりますが、それらを一貫しているのが『因果の道理』です。

■因果の道理とは、一言で言うと、【ある結果には、必ず原因がある】ということです。

【結果】とは、【私達の身の上に起きる、様々なこと】

今年1年は、皆さんの身の上にどんなことが起きたでしょうか？

嬉しかったこと。悲しかったこと。悔しかったこと。楽しかったこと。  
いろいろなことが起きたと思います。

これら身の上に起きたことはすべてあなたの【結果】です。

そこには必ず、あなたがそうなる【原因】があった、ということです。

■見ず知らずの場所で、たまたま知人と出会うということってありますよね。

「偶然ですね～」と言いますが、仏教では、そういう結果が起きた原因が必ずあったのだ、と説きます。

考えてみると、結婚相手というのも、30億の女性の中から1人選ぶんですよね。

向こうも30億の男性の中から1人選ぶ。その1人と1人が結ばれる。

そして、ケンカしている。あるいは、仲むつまじく添い遂げる。

そんな結果も、一人一人違います。

「なんで私ばかりがこんな目に・・・」と思う場面も少なくありません。

「あなたが受けたそんな結果にも、必ず原因があつてのことなのだ」と釈迦は徹底して解き明かしました。

■医学でも、「なぜこの腹痛が起きたのか。」その原因を探求しますし、  
科学でも、「なぜ雷は落ちたのか。」探求いたしますが、こと仏教において、「結果には必ず原因がある」という、この法則は大変厳格で、例外を一切認めません。

## 【2】結果には必ず原因がある

因果の道理の「因果」とは、【原因】と【結果】のことです。

【すべてのことには必ず原因がある。】釈迦の説かれたことはと徹頭徹尾、この道理に貫かれています。

「これだけは原因がないだろう。」という例外は、仏教では認めません。

原因なしに起きる結果というのは、万に一つも、億に一つも絶対にないと言われています。もちろん原因不明ということは、世の中に沢山あります。

一昨年でしたか、大西洋にブラジルの飛行機が墜落しました。

こんな時に飛行機会社も保険会社も、事件の可能性があれば警察も墜落の原因は何か、究明しようと尽くしますが、その手がかりになるのがブラックボックスといわれるものです。

ブラックボックスの中には、レコーダーが内蔵されており、墜落当時の状況がわかるようになっており、衝撃、耐火性に優れている造りになっています。

これを墜落現場から探すのですが、ブラックボックスとは名ばかりで、実際は蛍光色のオレンジ色などで、発見しやすいようになっています。

とはいえ、真夜中に大西洋に真ん中に落ちてしまい、今となってはどの辺に墜落したかわからない。

たとえわかったとしても機体は何千メートル下にまで沈んでしまって、今日の科学技術をもってしても探索は困難です。

そうすると「原因不明の事故」となるのですが、あくまでも「不明」なのであって、「原因がない事故」とはいわれません。

乱気流に巻き込まれたとか、エンジンが故障したとか、必ず原因があります。

原因なしに墜落するということは絶対ありません。

原因がわからない、ことと、原因がない、ということは全く違います。

「石につまずいて怪我をした」というのも、これは結果です。必ず原因があります。

飛行機事故に比べれば些細な出来事ですが、大きなアクシデントにも、小さなアクシデントにも、大小関わらず、それ相当の原因があります。

あなたの身の上に起きるさまざまな出来事には、すべて例外なく原因があります。

今、皆さんがこの文章を読んでおられる、その右隣には誰がいますか。

その人がいるのも結果です。

それにも必ず原因があります。

今年度マイ十大ニュースは？と忘年会の席なんかであります、あなたの身の上に起きた一切には原因があります。

まかぬ種は生えません。

まいた種は必ず生えます。

これが因果の道理ということです。

### 【3】道理とは

『道理』とは、三世十方を貫く真理のことです。

『三世』とは、過去世、現在世、未来世のことで、「いつでも」ということです。

『十方』とは、東西南北上下思惟ということで、「どこでも」ということです。

昔は正しいといわれても今では通用しない、そういうものは道理とは言いません。

三世を貫くとは、何千年前でも、今日でも、何千年後であっても変わらないということです。

またアメリカでは正しいといわれていても、日本へ来ると間違いになる、そういうものも道理とは言われません。

十方を普くとは、インドでも、中国でも、日本でもどこでも成り立つということです。

いつの時代になっても、どこへ行っても正しいこと、変わらない真理を『道理』といいます。

よく仏教の話しをしていますと、「これだけ科学も進歩したのだし、仏教の教えも変えていかねばならないよねえ。」と言われる人ありますが、「科学がどれだけ進歩しようが、なんで仏教を変えなければならないのか」と反問したいところです。

どれだけ世の中が変わろうが、科学が進歩しようが、教えの内容は変える必要はないし、変えてはならない。

帽子に合わせて頭を削るようなことをしてはならない、ということです。

科学の恩恵をあずかって、メルマガやブログで仏教を伝えてはいますが、その伝えている内容自体は何千年前から少しも変わりません。これからも変わりません。



#### 【4】運命の因果

「古今東西全ての人にとって、もっとも知りたいこと」って何でしょう。

世の中、知りたいことはいろいろあります。

Q 1. なぜ南極にオーロラができるのか？

Q 2. 本能寺の変の黒幕は？

Q 3. ピンク色が老化防止に聞くのはなぜ？

一つだけ、この回答がもらえたとしたら、あなたなら、どの質問に答えてもらいたいですか。

Q 1 の答え知りたければ、自然科学。

Q 2 の答え知りたければ、歴史学

Q 3 の答え知りたければ、脳医学か、心理学

を学べば納得できる答えがあります。

人間は知的好奇心旺盛ですから、様々なことを知りたいのですが、その興味の対象は各人各様です。

たとえば私なら、「真の黒幕は？」の話なら聞きたいですが、「南極のオーロラ」はあまり意欲がわきません。これは人それぞれです。

しかし全人類、誰に聞いても「えっ、それは知りたい、いや是が非でも、どうしても知りたい」と切望するものがあります。

それは何か？？

「私の運命は何によって決まるのか」ということです。

「幸福」とか「不幸」といった私の運命はいったい何によって決まるのか？

これは昔も今も変わらず、洋の東西を問わず、いちばん知りたいことでしょう。

しかし、『禍福はあざなえる縄の如し』

良かれと思ったことが災いを招いたり、災い転じて、福と為したり、人の運命だけは、もうわからない。

「なぜこんな目に・・・」思わぬ天災や人災に幾たび天を仰いで呆然としたことだろう。

「どうしてあの時、この人と・・・」何かちょっと違っていれば、今の夫との出会いもなかったに違いない。

あなたに起こったこれらの運命、誰が決めたんですか。

何で決まったと思っておられますか。

どちらでもいい問題ですか？

「古今東西全ての人にとってもっとも知りたいこと」でしょう。

「はあ、なんか最近、何やってもダメだよな。」

「いつもオレばかりこんな目にあう！」

と、自己の身の上に起きる運命を嘆くことはよくあります。

そして、「何でオレだけが・・・」

「最近、運勢どうなってしまったんだろう。」と悩む。

誰しも「運命は何によっておきるのか」

知りたいと思っています。

しかし一番知りたいことがいまだによくわからない。

はるか大宇宙の様子もわかり、

30億の遺伝子が解明されたといっても

いまだ人類は一番知りたいことには明快な答えを知りません。

ニーズはあっても供給なし

人間にとってこれほどの関心事は他にあるでしょうか。人類全体の大変なニーズでしょう。

しかしこの分野に関しては、科学者も、経済学者も、政治家も、並み居る知識人も黙して語らず。需要あって供給無しだ。

そこで、みんなが知らないことをいいことに、「言った者勝ち」とばかりに、勝手なことをいう者も、いつの世でもはびこっている。

「万物創造の神が決めた。」

「先祖のたたりだ。」

「守護霊が悪い。」

「手相の、この運命線が・・・」

「方角が・・・」

「厄年だから・・・」

「印相だ。」「墓の形が・・・」

と断言してくる。

人間は断言に弱い。

みんな知らないから、「こんなに断言するんだから、本当なのかも。」とそろっと信用する。

「なんでそんな根も葉もないことを信ずるの？」と言いたいところですが、

『溺れる者はワラをもすがる』

ワラにすがって助かるはずがないことくらいわかるだろうに、何を馬鹿なことをしてるのか。

と言うのは簡単ですが、船の設計技師でもおぼれたらワラにもすがるので。

船の設計技師は浮力の計算ばかり図面書いてしている人なのです。

そんな人がワラにすぎる。これは理屈ではない  
おぼれて苦しくて、どうしようもないからです。

人間は強いようで、弱いものです。

狐の求愛行動とか、狐の生態系など研究している生物学者が、狐の霊におびえる、とか、  
天文学者が星座占いにのめり込むなど聞きますが、学問知識で迷信は無くならないことがわ  
かります。

学問を積んでも、溺れ苦しむ人生の実態は変わらないから。

そして「なんでこんな目に？」の切実な問いの前に、自分の積んできた学問はあまりに無力だ  
から。

さあ、どれを信じたらいいのやら、といった有様です。

### 【運命は何によって決まるのか】

あーでもない、こーでもないといろいろな人が

いろいろなことをいっていますが、このメルマガで私がお話しているのは仏教です

お釈迦様はこのことについてどのように言われているのか、それをお伝えします。

ほかならぬわが身の運命のことです。

できる事ならこんな大事なことは信用のおける人から聞きたいものです。

今、テレビで話題の霊能者の何の何某さんよりも、今日でも世界の偉人と、多くの人が尊敬  
している「お釈迦様」はこのことについてどのように言われているのか、  
それを知りたいと思われませんか。

お釈迦様のお答えはシンプルで明快なものです。

○善因善果

○悪因悪果

○自因自果

これどういうことか、次回につなげましょう。

## 【5】善因善果 悪因悪果 自因自果

「なんで私ばかりこんな目にあうの(-ε-)」

「これから先の将来、どうなっていくんだろう・・・(´\_`;)」

【運命は何によって決まるのか】誰が決めたのか、知りたい、と思ったことのない人はないと思います。

幸せな運命を手に入れたい、幸福になりたい、と一日千秋の思いでみんな待ち臨んでいるのだから。

その幸福、あるいは不幸や災難ということは、いったい何によって決まるのか。

お釈迦様のお答えは明快で簡潔です。

- 善因善果
- 悪因悪果
- 自因自果

善い原因は、善い結果、悪い原因は、悪い結果を引き起こす、ということです。

▼善いタネをまいたのに、悪い結果が起きてきたり、

▼悪いタネをまいたのに、善い結果が現れた、ということは絶対にない、ということです。

ちょうど、カボチャのタネまけばカボチャが出てくるし、スイカのタネまけばスイカしか出てこないように、それは歴然である、と説かれています。

かぼちゃの種まいているのに、「何が出てくるかな」と首かしげる農家の人はいない。

スイカが出てきたのを見て、「あの時、何のたねまいたかな？」という農家の人もない。

まいた種を見れば、何が出てくるかわかるし、出てきたものみれば、まいた種がわかるということです。

『因』とは、行為のことです。そして『果』とは、運命のことです。

怠けてばかりいながら金持ちになりたいといっているのは、カボチャの種を蒔いていながらスイカがほしいと期待しているようなものです。

嫌われるような言動をして恋人から逃げられた人が、「俺がいつ何をしたって言うんだ」と言っているのも、大根が出てきたのを見て「あの時、おれ、何の種蒔いたかなあ。」

と言っているようなものといえましょう。

====

汝ら、過去の因を知らんと欲すれば、現在の果を見よ  
未来の果を知らんと欲すれば、現在の因を見よ  
(釈尊)

## 【6】自業自得とは

『自業自得』とは今日、日本語になってしまっていますが、もとは仏教の言葉です。

自らの業（行為）によって、自らの果報（運命）が決まると言うことです。

あなたの周りにも、【雑誌やTVにも登場する人望と人脈のある人】 【友人や恋人から愛されて、大事にされている人】 【知識と話題が豊富で若くして高収入の人】 等等、あると思います。

そんな人は飲み会なんかでも、周りに人垣ができるように 賑わいますよね。

同期の友人なんかに、そのように頭角を表す人があると心がざわついてくるものです。

その「収入」「人気」「知識や人脈」にねたみやひがみの感情を抱く人、比較して自分を卑下して、落ち込む人もあります。

そしてそんな成功した友人には近づきたくない、仲良くなれない、と敬遠してしまう人も少なくありません。

これはとてももったいないことだと感じます。

考えてみれば、その人がそういう成功を得たというのは、その人に現れた【結果】です。

それには必ず【原因】があったはずで。

ではその人に栄光をもたらした原因とは・・・

やはりその人の【行動】にこそ目を向けるべきでしょう。

そこにヒントがある。

（なんであいつ儲かるんだろう・・・）

「あっ、ああいう場面で、ぱっと手帳にメモしてたな。だから儲かるのかな」とか。

（なんであいつ、人気あるんだろう・・・）

「ああいう場面で、すみません、とまず言えるんだな。だから人気があるんだな」とか。

（なんであいつ、出世するんだろう・・・）

「いや、そもそも心がけが違うなあ、だから出世するのか」

成功者の考え方、言動には、ざくざくと学べるところがあるはずです。

【『学ぶ』というは『真似ぶ』なり】

彼等の成功の方程式となった、その行動、会話、発想を間近に接し、強烈な刺激を受け、取り入れたいと思ったことは真似ていけばいいのです。

今までそのような行動をしてこなかったんだから、その程度の結果しか手に入らなかったのは当然だと自己を痛烈に反省するのは時に辛さを伴います。

良くも悪くもすべては『自業自得』です。

その産みの苦しみに耐え、向上できる“きっかけ”と出来れば、そんな成功者、魅力的な人との繋がりこそ、『学びの宝庫』といえましょう。

## 【7】 自業自得とは（2）

■大学の合格発表掲示板の前で「あった～」と自分の番号を見つけて感涙にむせぶとき、苦節2年、蛍の光、窓の雪・・・過去の苦労が走馬灯のようによみがえってきます。

他にも▼仕事で成果を挙げた時▼好きな人に告白されたとき▼周りから評価を受けたとき  
いわゆる成功したときには、「努力が報われた～」と歓喜します。

その努力、苦労が一通りでない場合、その喜びもひとしおでしょう。

■成功者は「なぜあなたは成功したんですか」と尋ねられれば、それはもうしゃべるしゃべる・・・自伝まで書く(^ε^)

「ここが私は勝負だと思ったんです。」とディテールにわたって熱く語るものです。

「他の人のやらないことをやったからだ。」「あれだけ努力したんだから、この成功はその結晶だ」と自負することでしょう。

またその言は事実でしょう。

その決断、行動がその人を成功に導いたに違いありません。

■しかし、それがわかるのなら、成功したときだけでなく、失敗した時でも、自分の決断、行動に原因を求めねばならないでしょう。

成功した時は「自分の腕」なら、失敗した時も「自分の腕」が原因といわねばその人の主張には一貫性はないではないか。

成功した時は、常に【自分の手柄】。失敗した時は、いつも【人のせい、社会のせい】

これではあまりに調子が良すぎないか。

いい時だけその原因を自分に求めて、悪い時には八つ当たりしたり、それらしき人が分からない場合は犯人探しを始める、それはあまりに自己本位の、ご都合主義ではなからうか。

■すべては『自業自得』。カボチャの種から大根の芽が出たためしがない、まいたタネしか、生えてはきません。

遅速はあっても、いつかは必ず、果報を受ける。歴然として私がない、これを『因果の道理』といいます。



## 【8】愚痴

「愚痴っぽい人だ」「それ、ただの愚痴だよ」と今日、一般的に使われる『愚痴』とは、本来仏教の言葉です。

108の煩惱の一つで、「怨み」「妬み」「嫉み」「憎しみ」といった心を『愚痴』といいます。

『愚痴』の愚は「愚か」ということ。痴も、知恵が病にかかっている、ということで「愚か」ということです。

馬鹿な心であり、愚か極まりない心だ、と釈尊は言われているのです。

釈尊は $1 + 1 = 2$ ができないとか、文字のタテヨコがわからないという人を「馬鹿」とはいわれません。

何か自分に辛いことが起きると、あいつのせいだ、と憎み、人の幸せを妬む、その心を「馬鹿」といわれるのです。

それは『自業自得』という、あまりにも明らかなことがわからないからです

全ては自分のまいた種なのに、自分のこととなるとさっぱりわからない

そしてオレがこんな目にあったのは「親のせいだ」「子供のせいだ」「上司のせいだ」「部下のせいだ」「社会のせいだ」と周りを恨む。

他の人の失敗は「ほれ見ろ、やっぱりか。自業自得だよ」とわかる人でも、我が身に降りかかると、とたんに他人のせいにするものです。

我が身知らずもはなはだしい。

愚痴の心は、天に向かってつばを吐いているようなもので、全部それは我が身に戻ってきます。

恨みの心は恨んだ相手になんの影響を与えません。

ワラ人形で夜中の2時に五寸釘打ち付けても、本人が寝不足で苦しむだけですもん。

苦しい状況に立たされた時、他人が恨んだり、妬んだりして、さらに苦境に追い込まれていく人が如何に多いことか。。。

一切は自分の蒔いたもの、蒔かぬタネは生えぬと見つめ、一つ一つ誠心誠意、できることから着実に対応してゆけば、思わぬ道が開けてくるものです。

【愚痴をこぼすな 汗こぼせ】

このように「自業自得」を認め、己の行為を正そうとする、これを釈尊は『智恵』といわれています。

## 【9】諦観（1）

『諦める』という言葉があります。

▼オリンピックでメダルを取りたいと子供の時から夢だった人があと一歩及ばず、日本代表の人選からもれて、意気消沈、あと4年間、気力体力が続くだろうか、と思ったときに、「もうあきらめよっかな」と使ったり、

▼あるいはダイエットしようがんばるものの、一向に変わる兆しもなく、むしろ体重が増えてきて、「もうあきらめたら」と周りの友人にいわれたり。（私のことです）  
ユメをあきらめる、目標達成をあきらめる、など、どこことなく、ネガティブな意味に使われます。

スラムダンクの安西先生の数々の名言の中に、「あきらめたらそこで試合終了ですよ」とありますが、「あきらめない」姿こそポジティブであり、すぐあきらめる人は成功できない、消極的な人だと言われます。

■さて、本来は、この「あきらめる」という言葉、仏教由来であるます。

漢字で「諦観」と書き、諦はインドの原語「サットヤ」で、真理、明理ということです。

観はミルということですから、諦観というのは「アキラカニ真理ヲミル」ということなのです。

この「アキラカニミル」の仏語が次第に変化して、「アキラメル」になりました。

ところが言葉がこのように変わっただけならよかったのですが、その表す意味までが変わってしまったのです。

本来の「諦める」は【なぜそんな結果になってしまったのか、その原因を明らかに見なさい】ということです。

先ほどの例でいうなら、【オリンピックの人選に漏れた】のは結果ですから、必ず原因があったのです。

その原因を正しく分析し、その原因克服に努めれば、結果は変わります。

ですから本来の「あきらめる」とは、どうしてあと一歩で選ばれなかったのか、その原因を、ごまかさずに、やつあたりせずに、しっかり目を向けていく、ということなのです。

あるいは【ダイエットできない】のも結果ですから、必ず原因があるのです。私ならさしずめ、夜食べるのが遅くなるから、でしょうか・・・

悪い結果が起きている時に、なぜこうなってしまったのか、その原因を反省するのは痛みの伴うことですが、そこから目をそむけずに、八つ当たりせずに、あきらかにみていこう、というのが「諦める」という意味ですから、大変ポジティブな言葉であり、人生を切り開く大事なポイントを示す言葉です。

そして、この『諦観』は仏教の根幹をさす、大事な内容です。

## 【10】諦観（2）

■その人の人間性は、不幸や災難が襲ってきた時に現れる、と聞きます。

不幸が襲った時、▼その人の表情はどうか。▼その人は何を語るか▼そしてどんな心の向きになるか。よく活目せよ！といわれます。

成功している時、羽振りがいいときは誰でもかっこよく、ステキに見えるものです。

真に注目すべきは、挫折した時、一敗地にまみれた時です。

たいていは人のせいにして、逆恨みしたり、社会のせいにして、ぼやいたり、いじけたりしていくものです。

その原因を、これも『自業自得』と己を反省向上できるチャンスと転ずることができるか。この心の向きがその後の人生を決定的に変えていきます。

■徳川家康は「海道一の弓取り」といわれる戦上手で、生涯合戦に明け暮れた一生でしたが、敗戦はただの一回しかありません。

その生涯ただ一度の敗戦は家康31才、上洛を目指す武田信玄軍を三方ヶ原に迎え撃ったのですが、結果は惨敗でした。

このとき、浜松城に逃げ帰る時、あまりの恐怖に、馬上で脱糞したのは有名な話です。家康をそしる者はこのときの脱糞を格好のネタにしますが、むしろ私は、家康のこの後の行動にすさまじいものを感じます。

■家康が浜松城に逃げ帰った時にまずやったことは何か。

服も着替えずに、まず絵師を呼んで「今の自分の絵を描け」と命じます。

その時の肖像画は今も残っています。

目はかっと見開き、苦虫かみつぶしたような顔で、歯をぎりぎり言わせているような口元で、およそカッコいいとか品があるという肖像とはほど遠い。

誰しも、負けた時、失敗した時、ミスが露呈した時、ましてやお漏らしした自分の姿なぞ、誰にも見てもらいたくないし、知られたくもない。証拠があれば隠滅したいでしょう。

ところが家康は、一番無様な自分の姿を絵に描かせた。  
なぜか。

「こたびの敗戦は、己の慢心にあった。」と見たのです。

もう自惚れないように、この度の戦を胸に刻まなければ、と慢心の自戒としたのです。

そしてその後の戦にはその掛け軸をいつも持参し、座右を離さなかった、といわれます。

■凡将は「あの武将の働きが悪かった。」と家来のせいにする。

ひどいのになると、「方角が悪かった。」とか。

家康は敗戦の原因を自分の中にもとめた。

このエピソードを耳にした時、「やはり家康を天下人にしたのは偶然ではないな」と思いました。

## 【11】自由

「自由」という言葉は、【自らを由（根拠）とする】と読みます。

自分で決めて行動したのだから、その結果、いかなる事態が引き起こったとしてもすべて【自業自得】それは全部「自分を理由にする」という覚悟を持つ言葉が『自由』ということです。

ここ連日報じられるアメリカ軍普天間基地移設問題で鳩山首相も窮地に立たされています。

米軍と沖縄県民の間での板ばさみはまことにお気の毒ですが、民主党が躍進した先の衆院選で「最低でも県外」と公約したのですから、いたしかたありません。

言論の自由ですから、選挙中どんな公約も自由ですが、自分の吐いた言葉は責任がついて回ります。

自由と責任は一对のものです。

自由だけ主張して、その結果失敗しても、その責任は取らない、そんなオモシロイ自由は世の中にはありません。

ただの「自分勝手」であって、自由とは言いません。

「自由にさせてください」と主張するからには、責任は取らねばならない。

その覚悟ができていないときは自由な立場には立てる器でないということですし、失敗を人のせいにしかできない人は「自由」と「自分勝手」を履き違えているのです。

だから自由な立場の人は、気楽だと思ったら大間違いで、行動の責任は全部自分が背負うのですから、自由に行動するのには決然とした態度が必要です。

さて鳩山首相の場合、人のせいにして責任逃れしている醜態をさらしているとは思いますが、政権を担う力量ある器かどうか、問われています。

## 【12】口業

■ロサンゼルスダウンタウンの壁の落書きは、言葉にするのもはばかれるような、暴力じみた言葉、差別表現、猥褻なものなど書かれています。

ああいうのを子供が通学路の途中で頻繁と目にするのはよくないなあ、と思います。

■自分は情報発信するにあたって、きれいな言葉を使いたいな、と心がけてます。  
人のブログを読んでいても、感謝や気遣いあふれる文章は続けて読みたいという気持ちになりますし、すごく好感もてるからです。

逆に、非難中傷や愚痴やぼやきは、言っている本人が、不快、不安、不満、イライラといった感情を生み出しますし、聞いている人のもその感情は伝染します。

なので私も、「うざい」「きもい」「むかつく」などなど、会話でもメールでも使わないように心がけてますし、こういう言葉が飛びかう会話は極力聞きたくないですし、そんな類のサイトも見たくないです。

(こうして内容のために余儀なく書くときでも気持ちよくありません。)

■秋葉原の通り魔事件の犯人は、犯行にいたる心の道程をつぶさに携帯サイトにつづっていたようです。

- ▼「イケメンなら努力に結果がついてくるのに」
- ▼「愚痴ってもちゃんと聞いてくれる彼氏が いるんだろうが」
- ▼「トラックのタイヤが外れてカップルに直撃すればいいのに」
- ▼「今週は土曜日も出勤。どうせ一人でやることないんだから、別にいいけど」

会社や世の中への不平不満、否定的な感情を何千と書き込んでいた。

同情や慰めを求めたのかもしれませんが、結果は逆、ほとんど無視か挑発されたことで心の傷を広げ、孤独感を深めたようです。

もし彼が辛い毎日の中でも、ほんの些細なことでもいい。何かに感謝し、前向きな言葉を書き込み続けたら、どうであつたろう。

ネットでの反応は違っていたでしょう。

その反応を読み、また感謝の発言を送り、と繰り返していけば、時とともに恨みや憎しみとはまったく別の人生が開けていたはずだと思います



■私は言霊とかはまったく信じませんが、言葉はその人の心の向きを変え、確固たるものにするというのはそのとおりだと思います。

そして心の向きは、その人の人生を変える力がある、と確信します

そのような理由からですが、この日記でも自分が身につけたいことを意識的に書くようにしています。

思考体系のインストールをしている感覚です。

これが予想はしていましたが、予想以上に効果的で、己に変化をもたらしていることを実感します。

そういう意味で書く自分がいちばん得をしていることになります

### 【13】自業自得（ドラッカー）

『もし高校野球の女子マネジャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』という本が売られています。

ドラッカーといえば、没して15年以上経ちますが、今日なお世界中の経営者に多大な影響を与えている経営思想家です。

そのドラッカーと女子高生の組み合わせのギャップがまず面白いです。

どこにでもいる、ある女子高生が、人生初めての、野球部のマネジャーをやらねばならなり「マネジャーって何をやるんだろう」と戸惑い、勉強しなくちゃ、と本屋に行って「マネジャーのことがわかる本ください。」と店員に聞いたところが、手渡されたのが『マネジメント』（ドラッカー著）だった。という設定です(^\_^;)

その弱小野球部はドラッカー流マネジメントによって、新生、改革、ついには甲子園にいくという、笑える展開でした

ところがなかなか中身が感動的で、もらい泣きしそうになる場面が幾度か。（最近涙もろくなったかも）

そのドラッカーが組織管理について述べているのが「マネジメント」ですが、これは経営者や管理職だけでなく、▼スポーツならコーチが選手に、▼学校なら教師が子供に▼家庭なら母が子にそれぞれ生かせるように思います。

その中にあった一部抜粋です。

=====

マネジャーは人に成果を上げさせることで給料をもらっています。

マネジャーはボスではありません。「助ける人」です。

マネジャーたる者は、部下の能力や、道具や情報について責任があることを認識しなければなりません。

決して部下のせいにはなりません。

マネジャーの第一のルールは、「ダメな部下というものはいない。ダメなマネジャーがいるだけである」ということです。

これがマネジャーの基本的な態度なのです。

[illegible]

#### 【14】なぜ他因自果と思うのか

昨日の日記では、儲かったときは「俺の腕で」とすぐ思えるのに、損したときは「運が悪かった。」「あいつのせいだ」となってしまう、人間の実態に触れました。

良い結果が来ると、「自因自果、自業自得はまことだなあ」と納得するのに、失敗、挫折や不幸が来ると、自業自得とはもう思えない

なぜ私達の心はそうになってしまうのか??今日は考察してみます。

■2004年、アメリカの心理学者、トラフィモウとアーメンダリッツの研究です。

彼らは、400名の大学生に対して、“人にしてあげた親切な行動”と、“人にしてもらった親切な行動”を、書き出させました。

結果は、なんと、「人にしてあげた親切な行動」を、35倍も覚えていたのです。

つまり、もしあなたが何かのことで“～してあげたのに・・・”という思いをもっているなら、その35倍、“～してもらった”ことがある、という衝撃のデータ結果なのです。

■そういえば、私も小学生の時、芝生のきれいな公園で友人と遊んだのですが、遊び終わって友人がいなくなった後、自分達が出したごみが散乱しているのに気付き、夕闇の迫る中、私一人、そのときのごみを集めてひそかにゴミ箱に入れたのを、今も覚えています。

これは私の人生の中ではひそかに美談として自負する、思い出の一ページなのです  
今でもしっかりその時の光景を覚えていますから（笑）

自分はその何十倍も捨ててはならないところにごみを捨てっ放しにしたことがあるのに、それはすっかり忘却のかなたです。

なんと自分本位の記憶でしょうか。

■『借りた金は忘れるが、貸した金はもう忘れない。』ということわざもあります。

借りた金を請求された時は「えっ、そんなに借りたっけ」と首をかしげたり、  
返済する時は多く請求されたような気持ちにもなり、損した気分になって不機嫌になる。

一方、貸した金を請求するときには、義憤にかられた裁判官にでもなったかのようになる。

■普段やっている、おびただしい悪い行為を忘れてから何かあると「私が何をやったというの?あいつのせいじゃないか」と恨むのでしょうか。

良い結果が来ないと焦ったり、イライラする時も、自分の日ごろの種まきを冷静に振り返ってみれば、「まかぬ種は生えぬ。刈り取らねばならない一切のものは自分の撒いたものばかり」と知らされてまいります。

## 【15】まいた種は必ず生える（1）

仏教では、私たちの身の上におきるすべての運命は【業】によって決まる、と一貫して説かれています。

【業】とは、インドの言葉では『カルマ』といい、日本の言葉にしますと『行為』のことです。

○善因善果

○悪因悪果

○自因自果

▼幸福という運命は良い行いが生み出したものであり、

▼不幸や災難という運命は悪い行いが引き起こしたものであり、

▼善いのも悪いのも、自分の運命のすべては自分の蒔いた種が生み出したものですよ、と説かれます。

さて、その業に【人の目に見える業】と【人の目につかない業】とあります。

【見える行い】つまり「あいつ、あんなことしているぞ。」と他人から見られている、自己の行い。あるいは「あいつ、こんなことを言ったぞ。」と他人に聞こえる、自己の言動。

逆に、四方壁に囲まれたところで、ひそかに自分がしていること。これは他人にはわかりませんが、そんな【見えない業】もあります。あるいは誰も聞こえない声で「ちえ。」とつぶやいたり、「あ〜、つらい。」といえ、それも【見えない業】です。

今、私はこの文章を高田馬場のカフェで書いていますが、私が打ち込んでいる姿は周りに見えますので、こうしてパソコンに向かっている今の私の行為は表に見えます。

皆さん、今、ケータイかパソコンでこの文章読んでおられるわけですが、電車の中なら誰かが見ているでしょうし、お部屋で一人、読んでおられるのならだれも見えていないところでしている行為です。

人の視線に身をさらして行動していることと、誰にも知られずに行動していることと私たちの過ごす一日には、両方ありますね。

そしてお釈迦様は【見える業】も【見えない業】も、ともに結果を引き起こすぞ、人が見ていようが、見ていなかろうが、蒔いた種は歴然と運命を生み出すのだよ、と説かれています。

「蒔けば生え 蒔かねば生えぬ 良し悪しの  
人は知らねど 種は正直」

## 【16】まいた種は必ず生える（2）

自己の身の上に起きるさまざまな運命は、自分のやってきた業（行為）が引き起こすと仏教では説かれます。

その業（行為）に【人目に付く業】と【人目に付かない業】があります。

さて、あなたはどちらの際に悪いことをしますか。

■【小人閑居して不善を為す】という中国のことわざがあります。

「小さな人物は、一人になると、ろくでもないことをする」という意味です。

人の目のあるところでは、私たちはよく見られたい気持ちいっぱいですから、誰しも行いは正します。

誰も見ていない時に、人はつい浅ましいことをしてしまうものです。

小さな人間は誰も見ていないとサボることばかり考える。逆に成功者は、誰も見ていないところでこそ努力しているものです。

たとえば、イチロー。

人の目のつかないところではサボってばかりしてきた人とは到底思えません。

そんな人は10年連続200本安打の記録達成はできるはずがありませんから。

会議のプレゼンとか彼女とのデートとか取引相手との営業とか、こんなときは将来につながる大事な正念場とみな気を張ります。

一人のときの行為は誰も知らないのだからと気も緩み、情けないこともしてしまいます。

しかし仏教では人が見ていようが、見ていなかろうが同じように、行為に応じた結果を引き起こすと説かれています。

考えてみれば、わたしたちの日常を振り返ってみるに、表向きみんなが見ている時の行為は、そんなに周りと変わるものではありません。やっていることはどنگりの背比べです。

同じ時間に出勤し、同じ時間昼休みを取って、同じ会議に出て、同じような時間帯に帰宅するなのに、何年もたつと職場でもメキメキと頭角を表す人も出てくれば、うだつがあがらず、目立たない人と両者の違いが徐々に明確になっていく

もし両者の種まきに差が出るところがあるとしたら人の目に見えないとき、誰も見ていないときにどんな行いをしているか、ということでしょう。



【誰も知らないところでしている業】 そんな目立たないところがその人の幸、不幸という運命となって歴然と表れていくのです。

先述のイチロー。寮ですごした高校時代、毎日午前三時に起きて洗濯したといいます。

夜の時間帯をすべて素振りやバッティングにあてるためです。

「満足に寝れませんでした。練習できないよりはずっと精神的に楽でした。」

天才と呼ばれる人も、私たちの知らないところで、血のにじむような努力をしているのでしょう。

## 【17】まいた種は必ず生える（3）

■周りの人から見られている時の行動はみな気を張っています。

「あいつって、自己チューだね。」と言われたくないから、回りへ配慮する言動に心がけますし、「あの人は怠け者だ。」と思われたくないから、疲れていても、仕事します。

私たちは、「人から良く思われたい」「悪く思われたくない」という心いっぱいですから人が見ているときはまだ品行方正にできます。

問題は誰もいないときです。

■「小人閑居して不善を為す」（小さな人間は一人になると、ろくでもないことをする）  
と言う中国のことわざを昨日も紹介しましたが、実際、過去の自分をふりかえってみても  
つい自堕落に流されてしまうのは一人のときです。

私は会社勤めしている人間ではありませんので、朝何時に起きて出勤しなければならないこともないですが、長年の習慣から前日遅くなっても起床時間は6時半で変わりません。

大学一年生のとき、初めての下宿生活で昼夜逆転の生活になってしまい、一限の授業も出れなかったり、遅刻したりすることがありました。

ところが2年生になってから、友人とルームシェアして共同生活するようになり、規則正しい生活をする友人の手前、つらくても朝は起きるようになり、勉強もするようになり、  
おかげさまで、今のような習慣が身につきました。

ずっと一人だったら、起床も消灯も掃除も炊事も自信のない人間になっていたように思います。

■公金横領で懲戒免職になる事件は毎年のようにありますが、ついお金を目の前にするとそれが流用してもわからないようだとは魔がさすものです。

公金に手をつけることなどできないような、管理システムに変更するよう、その事務所は見直さなければならないと思います。

■見事な松の盆栽にするためには、針金であっちの枝を引っ張り、こっちの枝はぐるぐるに巻きつけて、と何年も手を入れていきます。

伸びたいように自然に伸びた松はそこらの山に生えているのと一緒に、誰の目にも止まりません。

あっち引っ張り、こっち引っ張り、何年もそうやってきて、成長していった松が、鑑賞される立派な盆栽になります。

人間も同じで、衆人環視に身を置いて厳しい目で批判されたりする、その繰り返しで自己の言動を正し、磨いていけるのでしょう。

## 【18】意業が元

ノーベル賞受賞者に日本もわきかえっています。鈴木章さん。ノーベル化学賞受賞。  
80歳にして一気に脚光を浴び、時の人になりました。

その裏でねたみと嫉妬でもやもやしている研究者も少なからずいるのではと思います。

その人に現れた成功や栄達は今回のように目立ちますので、そこばかりに目がいきがちですが、【原因なくして結果なし】その人に成功をもたらした【原因】がその人にあったのです。

その原因は何かといえ、【その人の業（行為）】だと仏教は説きます。

ところがこちらは目立たない場合が多い。

事実、このたびのノーベル賞受賞者がノーベル賞取るまで、どんな行動を続けて今に至ったか、知る日本人はほとんどいません。

▼目立つところにしか目がいけない人は智慧のない人。

▼目立たないところを観察する人、これは智慧ある人です。

■その業に三通りあるので、仏教では『三業』といいます。

- ・意業（いごう）...心で色々思うこと。
- ・口業（くごう）...口で色々しゃべること。
- ・身業（しんごう）...体で色々やること。

これをまとめて身口意の三業といいます。

■業【行為】には【人の見ているときの業】と【人の見ていないときの業】がありますが、【身業】【口業】はこの二つに分かれます。

周りから見られている自分の行動とは、ノーベル賞受賞者なら研究論文とか、学会の発表とかでしょう。

逆に見えない身業は、自室の書斎で一人本を読んでいたたり、研究室で深夜まで一人顕微鏡をのぞいていたたり、そういった、誰の目にも触れないところでの行為です。

【口業】も周りが聞いている時のスピーチなどは【目立つ口業】ですが、独言をつぶやいたりすればそれは【目立たない、誰も知らない口業】ですね。

身業、口業はこのように【見える業】と【見えない業】とありますが、心で何を考えているか、ほかの人は見えませんので、【意業】はすべてが【見えない業】です。

北海道大学のキャンパスを歩く鈴木さんは頭の中で何を考えてきたのかこれは他人にはわかりませんよね。

■では、身口意の三業の中で成功や失敗を決めるにもっとも大きな影響を持つのはどれでしょうか。

仏教では、それは【意業】である、と説かれます。

心が口や身体を動かす元ですから、意業こそもっとも重要視されるのです。

■では、もう一つ、質問です。

身口意の三業の中でもっとも目立たないのは何でしょうか。

それも【意業】です。

もっとも目につくことのない【意業】。

まさにそこにこそ成功の鍵が秘蔵されているのです。

## 【19】阿頼耶識

『業力不滅』という言葉があります。

私たちの業（行為）は、不滅の業力となって、阿頼耶識（あらやしき）という、心の蔵の中に納まっていると、釈迦は説かれました。

ちょうどたとえるならば、皆さんパソコンで2チャンネルって見ることはありませんでしょうか。2チャンネルに発言することありますか。

匿名であることをいいことに、個人や会社の中傷を書いたり、愚痴のハケ口になることもあります。

最近では学校裏サイトというのもあり、教室でのいじめの温床にもなっているそうです。

ドロドロした非難や愚痴を書き連ねても、最後電源を落とせば、「オレがこんなことを書いたことは誰も知るまい」とにんまりするのですが、パソコンの中に、ハードディスクがあって、そこには、入力された情報が残っています。

よってある操作をすれば、「あなたは、何時何分、こういうことを書いただろう。」という、動かぬ証拠が画面にあらわれます。あるいは、「こんな画像見ていたじゃろう」とあらわになります。

誰も見ていないところで、誰も知らないだろうと思って、パソコンに打ち込んだ内容が、すべてハードディスクに記録されていて、ある操作（縁）に触れば、目に見える結果となってあらわれる。

ちょうどそのように私たちが誰も見ていないところでやっている行動や、誰も知らない心の動きは、すべて自己の阿頼耶識に日々記録され、縁に触れると己の運命を引き起こすと、お釈迦様は説かれています。

## 【20】 まいた種は必ず生える

仏教の講師として駆け出しのころ、大阪に住んでいたことがありました。

奈良県の榛原郡(今は定かではないですが、当時は榛原郡といいました) に話を聞きたいという方がありまして、無人駅を降りて、山道を登っていきますと、溪谷といった感じになってきまして、うっそうとした山道で「熊に注意」の看板もあり、「本当にここいくと民家あるのかな」というところでした。

そんな人里離れた山奥深く、思いがけないところにふと見つけた、たった一本の満開の桜に「はっ」と、心を奪われたのです。

有名な花見スポットの桜の木だったら、「皆が愛でてくれるんだから♪」「周りがびっくりするよな」の咲かすぞ、よーし！」とがぜんやる気を出して、思い切り咲いてみせるが、誰も見ていない処に咲く桜なら、「やってられっか、こんなところで（怒）」「誰も見てないんだから手を抜こう」とぼやき、手抜きして、やる気なく咲いている。

桜の木にはそんなことはないんだな、と。

人が知ろうが知るまいが、見ていようが見てまいが、真心尽くして事にあたる。

そんな凛とした桜の姿に心打たれたのです。

## 【21】まいた種は必ず生える

先日、友人のMくんがアメリカの公認会計士試験に合格したという知らせを聞きました

Mくんとは、彼がサンタモニカカレッジに通っていた時に仏教を聞きたいということで、縁ができた仙台出身の留学生でした。

もう6年前ですね、

毎週一回、彼のホームステイ先のユダヤ人夫婦の家に訪問して、コツコツ話し込んだのが、懐かしく思い出されます。

その当時からアメリカの会計士の資格をとりたいと言っていたので、ついにユメをかなえたことを心から祝福したいです(^-^)/

Mくんが言っていたことで「そういうの言う奴多いけど、それなら日本帰れよ、って、オレ言います。」という言葉が今も心に残っています。

そのときの語勢や表情が温厚な彼には珍しく、感情をあらわにしましたので、今もよく覚えているのです。

それは私が、「よく留学生の中にアメリカ社会やアメリカ人のものの考え方に腹を立てる人が多いよね。」と言った時の反応でした。

私は二年間口サンゼルスに住んでいましたが、住んでいるところと目と鼻の先にエルカミノカレッジ（エルカミノ短大）があり、そこに通う日本からの留学生と、日本人同士の気安さから一緒に話をする機会もよくありました。

アメリカの大学生はすごく勉強します。高校時代までは、知識、学力は日本のほうが上なのですが、大学の時点で、日本の若者は追いつかれ、抜かされていくのだと痛感しました

大学（ユニバーシティ）時代、はたから見てもわかるほど、彼らはよく勉強しています。

その中にあって、日本人の留学生がそのペースについていくのは大変です。

慣れない英語の授業を受け、一冊の本を読むのも、辞書と格闘しながら現地のアメリカ人の数倍の時間をかけています。

それでも残念なことに勉強についていけず、断念して、途中帰国したり、大学を辞めて、なんとなくしばらくこちらにいる、という留学生をたくさん見てきました。

そんな留学生からよく聞かされたのは、「アメリカが悪い！！」という論調です。



彼らの話を聞いていると、確かに理不尽に思うことも多く、言いたくなる気持ちもわかります。

Mくんの言葉は、そんな文句を言う留学生への憤りなのだ、と思っていたのですが、合格の知らせを受けた今になって、あのときのことを振り返ってみるに、彼のあの言葉は、自分に言い聞かせていたのではなかろうか、と。

アメリカという、環境の壁にぶつかった時に「オマエはこの国で一旗あげるために来たんだろ。」と常に自分に言ってきたからこそ、あんなに感情が入っていたのではなかったか・・・

考えてみれば、アメリカが悪い、というなら、アメリカに来た人は、みんな不幸になっているはずです。

実際は、そうではない、M君のようにアメリカ社会に溶け込んで、成功していく人もたくさんいるのですし、アメリカンドリームという言葉もあるように、徒手空拳の若者が、ユメだけを胸に成功できる国です。

アメリカという土壌で、大輪の花を咲かせることができるか、あるいは枯れてしまうか、それは土壌のせいではない、【どんな種をまくか】にかかっているのだと仏教では解き明かします。

この発想がきちんとできるようになると、人生は大変わりします。

そのために知っていただきたいことが『縁』ということなのですが、何回かのシリーズでお伝えしていきます。

## 【22】縁

『縁』という言葉があります。和語では「ゆかり」とも読み、私達も様々な場面で使います。  
「ご縁があった」「縁談がすすむ」「縁故関係を洗え」

ところが、改めて、「縁」って、どんな意味？と聞かれると、きちんと説明できないものです。

じつはこの『縁』という言葉は、仏教から来た言葉であり、仏教を理解する上で極めて大事な意味を持ちます。

仏教では、万物事象は、因と縁が結びついておきる、と説かれています。

この図をご覧ください。

【因】とは「原因」、【果】とは「結果」です。

原因なしに起きる結果は絶対はない

(まかぬタネは生えぬ)

原因があれば、必ず結果が生じる

(まいたタネは必ず生える)

これを『因果の道理』と言いますが、正確には因縁果の道理と言います。

【因】に【縁】が加わると、【果】が生じるのです。

お米を例に考えてみましょう。

米はモミ種から作られますから、米の因はモミ種です。

しかし、いくらモミ種があっても、畳の上にまいては何十年待っても、米という結果は得られません。

土や温度、水や空気など、いろいろな条件がそろって初めて、お米が取れます。

仏教では、これらのものを『縁』といいます。

すべてのことは、因と縁が和合して、初めて結果が現れる。

これを「因縁果の道理」といい、「因果の道理」は縁を因に含んだ言い方です。

因だけでは絶対結果は起きませんし、縁だけでも絶対結果は生じません

「一切法は因縁生なり」（経典）

因縁和合して結果が現われる

この関係を徹底的に、精密無比に説かれているのが仏教です。

学ぶほどに、釈尊が精緻極めて、この道理を明らかにされていることに感嘆するばかりです。

### 【23】縁（縄を恨む泥棒）

昨年に私は、生涯二度目のスピード違反で捕まりました  
中央自動車道で、場所は長野県でした。

私は免許取って2年目に、一度覆面パトカーに捕まったことがあり、以来、スピードにも気をつけ、周りに覆面パトがいらないか、チェックを怠らないことを常とし、自分なりに警戒して運転するようになりました。

それで15年以上、無事故無違反だったのですが、それだけに悔しくてなりませんでした。

警察官の「してやったり」といったばかりの、満面笑みにも腹立たしい

「俺の前の車、相当スピード出していたんで、あれにつられて出しすぎたな」と前の車のせいにもしたくなる

助手席の人との会話が盛り上がり、つい運転に注意散漫になっていたのも、助手席の人のせいにも思えてくる

なにしろ周り中に、原因なすりつけようとする心が出てくるのです。

そのとき、思い出したのが、「縄を恨む泥棒」ということわざです。

泥棒が捕まって縄で縛られている。

その泥棒、“痛い痛い。俺を苦しめているのはこの縄だ！この縄さえなければ、俺は苦しまなくていいのに”

“畜生！この縄のせいで”と縄を恨んでいる。

そんな泥棒が、もし目の前にいたら、あなたはどう思われますか。

「馬鹿だなあ」「我が身知らずもはなはだしいな」とあきれ笑うでしょう。

【なぜ他の人は縄で縛られていないのに、おまえだけが縄で縛られて、苦しまなければならないのだ？】

問題の焦点はそこにあります。

他人事なら、泥棒の馬鹿さ加減がわかるのですが、自分に苦しいことおきると、すっかり馬鹿な泥棒と同じになってしまうのです。

自分が捕まったのは・・・

「覆面パトカーがいたからだ」

「前の車のせいだ」

「助手席の人のせいだ」

どれだけ、そういう条件があっても、やはり捕まった原因は

【私のスピード超過運転】

それ以外の何物でもありません・・・

ユダヤの格言にもあります。

「人は転ぶとまず“石”のせいにする。

石がなければ、“坂”のせいにする。

そして、坂がなければ、“靴”のせいにする。」

## 【24】縁（果報は寝て待て）

■今はさまざまなジャンルの人と時間の許す限り、会って話をしています。

仏法の話をするという形に必ずしもならず、お悩み相談カウンセラーのようになることもあれば、時には他流試合の様相になることもあります。

■一見「おい、それ、お前の将来のキャリアに何かプラスになるの？」といわれるようなことにかなりの時間を割いています

原稿を書いたりする時間や講義の時間にしわ寄せがあるくらいにやっていますので「なんでそこまで時間使うの？」と思う人もあると思います。

しかしこれ、まず今いちばんやりたい好きなことでして、また将来のためにも堅実な道を歩んでいると確信しています。

むしろ周りから「なんで今、そんなことに力入れるの??」と言われるようなことをやり続けていることに手ごたえを感じているのです

■すぐに結果を表さない、そんなことの方により価値があると思っています

今学んでいることが、いつ結果を結ぶのか。そんなことは考えません

「果報は寝て待て」の境地です。

実はこのことわざ、仏教の因果の道理を教えているのですよ。

「果報は寝て待て」ということわざはよく誤解されているような、ごろごろ寝転がっているうちに、突然幸せが舞い込んで来るという意味ではありません。

こつこつと努力を続けていれば、いつか必ず結果が返ってくるのだから、結果が出てこないといって、「あせるな。」「イライラするな。」ということです。

なかなか結果に結びつかないからといって、もう少しというところで放り投げてしまう愚を戒めたことわざです。

■こつこつやっていけば、必ず実を結ぶんですから貯金していると思っただけなんです。

貯金はすぐ引き出さないで放置しているものほどいい。

給料から5%自動に天引きされるようにして、あとは貯金していること自体忘れてしまったらどうだろう。

10年たってからふと気付いて（あれ、オレって貯金してなかったっけか??）と、残高見てびっくり

そんなのが望ましいです

■今の努力が、１０年後、２０年後に身を結ぶこともあると思ってます。

すぐに結果を出さなきゃならんとは、ぜんぜん問題にしてません

すぐに結果が出てくるのはあまりたいしたことない。

結果までのスパンが長いもののほうが、より値があると確信してます

## 【25】縁（結婚）

私の友人のNくんが18年ぶりに高校の同窓会に出た時のことです。

当時クラスの級長をしていた、真面目でしっかり者の女性と席が隣になったそうです。

その女性、現在は夫のDV（家庭内暴力）と浮気で、「地獄のような生活を送っている」とのことでした。

殴られてあごを骨折したこともある、とか

高校時代は、勉強や恋愛などお互い意識して競い合った同級生が、久しぶりに出会った同窓会で再会してみれば、みんな、まあまあ普通の結婚生活を送っていることを知れば、よけいみじめに感じたのでしょう、

「何で私だけがこんな目にあうの？」と目に涙をためて言っていたそうです。

無理もないことだと思います。彼女のことをよく知っているNくんも、「何でこんな良い人が、そんな目に会わなければならないのか。」とやるせない気持ちになったと言っていました。

■以前からの日記でも書いていますように、仏教では、我が身におきる一切の運命は、すべて自分のまいた種による、【自業自得】であると説きますが、「こんな女性の場合でも、ですか？」と問い質したくなります。

しかしお釈迦様は、【自業自得】【自因自果】これには、一切の例外はないと言われます。

「この暴力夫のために私は苦しんでいるんだ、あいつのせいだ。あいつがいるために、わたしの人生、めちゃくちゃになった」と恨んでいるのですが、考えてみると、そんな暴力夫がいても、結婚さえしなければ、この女性はこんな目にあわなかったでしょう。

「何で私だけがこんな目にあうの？」の答えは、やはり「あなただけがその男を選んだから。」でしょう。

世の中にはたくさんの男がいる。その女性の前にも、何人もの男性が現われたはずですが、その数ある男性の中から、「私はこの人しか見えない、この人と一緒にになりたい！！」と選んだのは誰か？

いつしか心がかたむいて行って、好きになっていった、のは誰の心か？

もし違った人を選んでいたら、こんなことはおきなかったのです。



こんな暴力男がどれだけいて、どこかで暴れていたとしても、自分が結婚さえしなければ、自分に、今のような不幸な運命はおきなかったのです。

どうにもならない深い業で、そんな男を好きになってしまった、その女性の行為が【因】なのです。

ではこの男は悪くないのか、といえば、結婚相手を不幸にした、悪い【縁】だったのです。

こんなタイプの男はいますし、また増えているとも聞きますので法律でも社会でも問題にして、反省を促し、更正してもらわねばならないのは当然のことです。

それでも周りには、これら悪い縁は少なくありません。

そんな悪い【縁】にぐいぐいと近づいてしまう、悪い業【因】を自分が持っていた場合、その因縁和合して、不幸な運命【果】がおきてくるのです。

## 【26】縁（己が変わると運命が変わる）

さて、昨日の続きですが、夫のDVと浮気で苦しむ女性が離婚した、としましょう。  
そうすれば夫との縁は離れますので、DVで苦しむという結果はなくなります。

ところが、再婚した夫がまたDVだったとか、また浮気されるとか、起きてくる場合があるのです。

またも「あいつのせいだ」と憎み、「あいつのせいで人生台無しにされたくない」と再度離婚。

ところが三度目の夫が、またDV・・・

そこまでくると、「なんで私だけがこんな目に」「何かの霊でもついているのでは」と思いつめるようになる。

ワラをもすがるように占い師に見てもらったところ、案の定、「あなたの肩に女性の霊がついてます。その女性は夫の暴力と浮気に耐えられず、自殺した霊で・・・」とまことしやかな、具体的な話を聞かされて、「あ～～、やっぱりそうだったのか～～！！」「除霊するには、かくかくしかじかの、由緒ある云々～」と聞かされてお金を巻き上げられる

そこら中に聞く話です。

『溺れる者はワラをもすがる』不幸が続くと、人間弱いもので、下らない根拠のないことにも振り回されてしまいます。

霊やたたりで運命が決まるのではありません。

仏教では、一貫して【運命は己の行為が生み出す】と説き明かします。

ここで運命を変えるには、そんな悪い男を夫と選んでしまった自己の選択を反省しなければならなかったのです。

夫も悪い縁ですから、問題ですが、選んだ本人も、己の、人を見る目の無さに、「失敗！」と、こつんと自分の頭を叩いておく心があれば、ずいぶん違ったはずです。

夫さえいなければこんな目にあわなかった、と悪い【縁】ばかりを責めて、そんな夫を選んでしまった自分の【因】を省みなかった場合、また同じような男を選んでしまうのです。

心がけが変われば行動が変わる

動が変われば、習慣が変わる  
習慣が変われば、人格が変わる  
人格が変われば、運命が変わる

自己が変われば、DV男も近寄りにくくなる、  
あるいは暴力や浮気をしにくくなるものです。  
いわゆる、悪い縁が離れていくのです。

逆にこちらが驚くほど、良い縁が次々と、自分に近づいてくるでしょう。

## 【27】業力

人を好きになるのは理屈ではないですよ。

「ああ、ステキな人だ！」と雷の一撃があり、その後で遅ればせながら理性が活動を始めて「でも、どうやって彼女に近づけば・・・」と作戦を練るのです。

【恋は目から始まる】頭で「私の年収はこれこれで年齢や社会的魅力から判断すると、同僚のA子さんにプロポーズするのが最適だ」と分析、計算してから、「うお〜！！A子さんが好きだ〜！」と熱を上げる人はいません。

理屈や計算ではどうにもならない、深い業がその人を動かしています。

■さて、DVで苦しむ女性の例を引き合いに、因縁果の道理について回を重ねて話してきましたが、もしあなたが、DVで苦しむ女性と友人だった、としたら、どうしますか。

友人の運命を変えたかったら、その方法はハッキリしてます。

何かに拝むのでもなく、姓名の画数を変えればいいのでもない。

【因】である行為を変えるか、あるいは【縁】である環境を変えるか、どちらかを変えれば【果】運命は変わる、これが仏教の答えです。

あなたはその友人に「あんな人を好きになってはいけない」とか、「こんな場面で言うことを聞いてはならない」とか、いろいろ彼女の言動、考えを変えるようにアドバイスすることです。

しかし先述の通り、理屈では止められない、深い業で好きになってしまって、行動してしまう、長年の悪癖のようなもので、これは簡単に治らない、ということもあります。

その場合は、もう一つの方法、【縁】を近づけないことです。

「この男性と会わせたら、彼女だったら、ひっぱられちゃうなあ。」と思えば、その場にはその友人を連れていかないことです。

業は長年の根深いものを抱えていて、いかんともしがたい、ならば、縁を変えてしまうのです。

■マンガが大好きな浪人生が、「この夏休みに漫画喫茶、ネットカフェで勉強する」と計画していたとしたら、間違いなく勉強になりません。

マンガ読みふけて、貴重なひと夏は終わりです

しかしマンガ好きな人に、マンガ嫌いになれ、といっても、これはなかなか難しいでしょう  
自分はマンガ好きという業を持っているな、と自覚したならば、マンガのない、図書館や自  
習室で勉強しようと、環境設定することです。

自分の姿を反省し、己の実態を見つめるようになった人は、【縁】をととても重視するよう  
なるのです。

【心の向きが変われば、人生はがらっと好転する】と言ってきましたが、  
今回は【縁を変えれば、いくらでも人生は変わっていく】と言いました。

どちらも仏教では重視される、大事な内容です。

## 【28】強縁

「光に向かって」という本にあったエピソードを紹介いたします。

「縁」の大切さを知らされるお話です。

====

明治三十三年に没した博多の万行寺（まんぎょうじ）の住職、七里恒順（しちりこうじゅん）師は近代の名僧といわれる。

ある夜、師の寝室へ強盗が押し入り短刀を突きつけ、「金を出せ」と迫った。

まじまじと自分を見ている師に、薄気味悪くなった泥棒サン。

「早く出さぬと、殺すぞ、殺すぞ」とうろたえる。

「金は、床の間の文庫の中にある」

静かに師が答えると、文庫をかかえて慌てて立ち去ろうとした。

「待ちなさい」

「何か、用か」

睨みつける犯人に、おだやかに師は言っている。

「実はその金はこのう、仏さまからのお預かりものなんだ。本堂へ行って、一言お礼を言ってから帰るなされや」

威徳に打たれたのであろう。

泥棒は素直に本堂へ行き、頭を下げた帰っていった。

やがて師に、警察から呼び出しがあった。

あの犯人が捕らえられたのである。

「金品を盗られたのなら、すぐに届けてくださらないと困ります」

「いや、私は盗られた覚えはありませんが……」

「貴僧はそう言われても、犯人がハッキリと白状しているのですから」

「それは何かの間違いでしょう。確かにある晩、金がほしいと言ってやってきた者はいた。だが、その人には仏さまにお礼を言って帰るなさいと、与えはしたが盗られたのではない」いかめしい警官と、さわやかな問答が交わされたという。

刑を終えて出所すると聞いた師は、

「因縁のある男だ。私の寺に会計係がない。ちょうどよい、働いてもらおうか」と身受けしている。

感激した彼は立派に更正し、生涯一度のミスも犯さなかったといわれる。

=====

泥棒でも、しかも盗みに入った家で、出会った人によって、人生が大変わりしたというエピソードです。

私達の人生は誰と出会うか、で大きく変わります。

『縁』には大変な力があるということです。

空気中の炭素は、高温高圧の縁に触れると、ダイヤモンドになります。

「ダイヤモンド」

この美しく輝き、最高の硬さを持つ物質が、軟らかくて、時として汚れのひどい物の代表とされる炭や油煙や鉛筆の芯などで知られる石墨（グラファイト）と同じ成分の、炭素からできているのですから面白いものです。

私達も『縁』を大事に、ダイヤモンドのように輝く人生にしたいところですね。